



部活動

安全マニュアル



科学部

	予測される危険	→	安全対策
用具	<ul style="list-style-type: none"> ●カメラの破損等による怪我 ●虫取り網の破損による怪我 		<ul style="list-style-type: none"> ●日頃の確認、手入れを怠らない。
環境	<ul style="list-style-type: none"> ●閉め切った環境による体調不良 ●雷雨 ●理科室内の物品・薬品を触って怪我 		<ul style="list-style-type: none"> ●室温や湿度などに留意。換気をする。 ●外での撮影の際は気象情報を把握して置き、早めに安全な場所に避難。 ●理科室内の物品・薬品には触らない。
練習中	<ul style="list-style-type: none"> ●虫取り網による怪我 ●カメラを落とし怪我する 		<ul style="list-style-type: none"> ●近くに人がいないことを確認して使用する。 ●ストラップを首または手首に通し落ちないようにする。
情報保護	<ul style="list-style-type: none"> ●被写体 		<ul style="list-style-type: none"> ●人物の撮影はしない。

サッカー

	予測される危険	安全対策
用具	●防球ネットの破損	●こまめな点検。破損確認→修繕(依頼)。
	●スパイクの紐がほどけて転倒	●生徒への呼びかけ、相互点検。
	●ゴールが倒れる	●土嚢袋などでしっかり固定。 ゴール移動の際などは指導者監督の下で 十分注意して行うこと。
環境	●グラウンドの凹凸による捻挫 小石などによる怪我	●丁寧なグラウンド整備。 ●定期的に石拾いを行う。
	●防球ネット等への衝突	●設置場所の確認、周知。
	●ボールを踏むことによる転倒	●グラウンド周辺に必要なボールを散乱 させない。
	●雷雨、落雷	●事前に情報収集に努め、早めに安全な場 所に避難。
	●熱中症	●服装(帽子)、水分補給、アイシングなど。
練習中	●蹴ったボールが周りの人に当たる	●防球ネットの設置。ネットを越えた際には 部員が大きな声をかけるなど約束事を決 めておく。
	●防球ネットを運ぶ際のトラブル 例:バランスを崩して手をつき怪我をする他の 部員との衝突	●互いの呼吸を合わせて、進行方向に気を 配りながら運ぶ。
	●他部活の生徒との衝突	●声掛けの徹底。
	●アップ不足による怪我	●時間をかけて丁寧にアップさせる。
	●接触による怪我	●すね当てやキーパーグローブなどの安全 用具の装着を徹底。フェアプレーを遵守し 安全なプレーを行うよう指導。
	●複数メニューを同時進行している際の衝突	●周りの環境を常に把握させる声掛け、適切 な練習メニューの設定。
	●ヘディング練習時の頭同士の衝突	●正しいヘディング方法の指導。
●疲労の蓄積	●時間をかけてじっくりクールダウン。	

※救急箱を用意し、怪我の際はすぐに応急処置ができるようにしておく。

ソフトテニス

	予測される危険	→	安全対策
用具	●ラケットの破損による怪我		●日頃の手入れを怠らせない。
	●ネットワイヤーの破損、ささくれ等による怪我		●日頃のチェック。必要であれば修繕。
環境	●コート内のくぼみ、小石		●コートローラーやコートブラシをこまめにか け表面の凹凸を無くしておく。
	●ラインテープが浮き上がっている。針が飛び 出ている。		●日頃のチェック。必要であれば修繕。
	●落ちていたボールを踏んで捻挫する。		●ボール拾い係を設定し、こまめに拾わせる。
	●雷雨、落雷		●事前に情報収集に努め、早めに安全な場所 に避難。
	●熱中症		●服装(帽子)、水分補給、アイシングなど。
練習中	●ネット支柱の移動時の事故		●複数で行い、取り付け取り外しの際には周 囲に注意させる。
	●コートローラーで足を踏む等の事故。		●指導者が見ているところで使用させる。 複数で行い周囲に注意させる。
	●振ったラケットが周りの人に当たる。		●適切な間隔を取らせる。危険時の声掛け。
	●ボールが目当たる。		●自分のボールだけではなく周りの人の動き にも注意させる。ボール拾いはラリーの最中 などに不用意にボールを拾いに行かない。
	●疲労の蓄積		●時間をかけてじっくりクールダウンをさせる。

※救急箱を用意し、怪我の際はすぐに応急処置ができるようにしておく。

ソフトボール

	予測される危険	→	安全対策
用具	●バットのグリップが滑ってすっぽ抜ける		●グリップテープなどを点検すること。 定期的なチェックの指導。
	●防球ネットの破損		●状況により用務員や管理職に修復を依頼する。
	●バッティングマシンの破損		●状況により業者に修復を依頼する。
環境	●落ちていたボールを踏んで転倒する		●練習後には必ずボールを全て回収し、数を数えるよう指導する。
	●グラウンド整備不足によるイレギュラーバウンドなどの発生		●日々のグラウンド整備の大切さや、練習間の整備を大切にしよう指導する。
	●ベースを固定していないことによる転倒等		●練習では必ずベースを固定する。
	●雷雨、落雷		●事前に情報収集に努め、早めに安全な場所に避難する。
	●熱中症		●服装(帽子)、水分補給、アイシングなど。
練習中	●バットスイングが他の人に当たる		●バットを振る練習をする前には周囲の状況を必ず確認する。バットを持っている選手への、急に振らないことの指導やバットを持っている選手に安易に近づかないことの指導を徹底する。
	●打球が他の練習や他の部活生徒に当たる		●練習前には他の練習や他部活との距離感を必ず確認する。
	●ネットが倒れて怪我をする		●ネットの足は直角に置く。強風の際にはネットを倒し、使用しない。
	●転がっているボールを踏んで怪我をする		●プレーする周辺にボールが落ちていないようにすぐ拾う。落ちている場合はプレーしないことを指導。
	●防球ネットの位置が悪く、打球が当たる		●練習前には防球ネットの位置を確認し、打球が当たらないかを想定する。必要に応じ、ヘルメット着用を指導。
	●疲労の蓄積		●時間をかけてじっくりクールダウンをさせる。

※救急箱を用意し、怪我の際はすぐに応急処置ができるようにしておく。